

蕃人等が宗教思想の発生と認めらるべき信念は概ね左のごとし。

「レルトツフホ」(ある蕃人は「オトツフホ」ともいう)すなわち神は無形にして天地の間に存在するも肉眼にて見るあたわず。そして神は廣大無辺にして人類以上の医大なる不可思議力を有し、天地間に生存せる人類および動植物を支配し、随時これが処分をなし、またこれに刑罰を加う。殊に人類に対しては時々刻々不可思議の現象をもって誠飭黙示(かいちよくもくじ ※注意を与え戒める)し、また突然不可思議力をもって宣告処分す。人類は決して上に対して抵抗しうべきものにあらず。彼ら蕃人の信念はかくのごとく天地間における推理しあたわざる。現象はことごとく神の行為と信ずるをもって神および不可思議の語は相同じく用いらるるという。

第一節 蕃人の髪に対する迷信と祝祭

(一) 信念

阿里山蕃人はあたかも多神教者のごとき感念を有す。たとえば農作物の豊凶は作物を司る神のせいなりと信じ、疾病は疾病を司る神の怒りに触れたるものなりと信ずるがごとし。要するに天地の万象各専門の神のせいなりと信ずるなり。

(二) 祈祷

祈祷者を蕃語にてこれを「ルイボ」という。「ルイボ」は概ね老人にして土目に尊敬せらる。「ルイボ」の専務は死者を出したる際、葬後祈をなすこと、疾病を治すること、占をなすこと、予言をなすことなどなり。死者埋葬後の祈祷はその靈魂に対し決して家屋の内外に徘徊して禍を与うることなく一日も速(すみやか)に上天すべしというにあり。疾病者に対しては一個の茶碗に清水を盛り一方に小なる木の葉を持しもって水を散布しつつ祈祷をなす。特に痛める局部を木葉にて払うなり。依頼者は粟もしくは獣肉をもって相当の報酬をなす。

(三) 穀類播種および収穫の祝

阿里山蕃人は粟および米の収穫時もしくは播種の時にあたりいずれも略十日内外社外に出づることを禁じて交通を遮断し酒を造りて祝をなすを例とす。今その一斑を左に示さん。

(甲) 粟祭

毎年七月より八月にわたりておおむね粟の成熟期に至れば土目老人等協議のうえおよそ十日前後に粟祭りの期日を発表す。この報に接するや蕃婦らは各自酒を造り家屋内外の大掃除、社内道路の修繕などに忙殺せられ、日もこれ足らざるの観を呈するに至る。男子は発表とともに饗応用の獣肉を獲らんとして狩猟に出づるを例とす。祝日の第一日には土目副土目両家の一名を正午より招待し蕃酒肉類を饗し、第二日目より各戸順番にて各蕃人を招待す。第三日目に土目の家族一人未明に粟畑に酒を持ち行き粟の神を祭り五六の穂を持ち帰るなり。第四日目に至り他の蕃人皆粟畑に出て第三日目の土目のごとくし粟の神を祭る。この日は土目の家族は一同粟畑に出でて粟摘をなし他の蕃人はその翌日より摘み始むるを寒冷とす。第五日目再び酒を造り各戸樹ン版に酒を呑み廻るなり。これ第一日に粟の神を招待し置きしをもって皆酒を供して天に帰らしむるなりと。

十五日を経て各戸再び酒を造り他社の蕃人を招く。この日粟祭中禁物を食せしものもしくは平素怠慢なるものあるいは姦通罪を犯したるものなどを公館に集め、土目老人等訓戒的の宣告を与え笞刑を執行して将来を戒む。粟祭中は朝早く畑に出で粟を摘みて籠に入れ一回家に帰れば二回行くことなし。午後は男女ともに歌

を喰い酒を呑み子供等は相撲等の遊戯をなすなど、彼らにとりて実に一年中の楽しき時にして平素の劇しき労働もこれがために慰めらるるものなり。

粟祭中蕃人の堅く戒むるもの左のごとし。

- A. 食塩・芭蕉・魚肉・蕃薯・薑（しょうが）等を禁食すること一週間
- B. 粟を摘むにあたり他人と談話を禁ずること
- D. 粟摘み以外に耕作を禁ずること
- C. 採薪を禁ずること （※順番は原文のままとしている）

以上各項を犯すにおいてはたちまち粟の神の怒りに触れ、翌年度において豊作を得ざることと信ずるがゆえなり。そうして粟の収穫には二十日ないし三十日を要す。なんとなれば彼らは全く熟したるものより一穂ずつ摘み取るをもって充分熟せざるものは後に廻し置くをもってなり。

(乙) 米祭り

米祭は蕃人の正月にして毎年十一月中旬頃より各戸盛んに蕃酒を醸しあるいは餅を搗（つ）き大いに祝す。男子は祭りの四五日前より山に登り狩猟す。帰社するときは各自申合せ一隊をなして帰り来たり、蕃社の入口に至り樹上に武器を掛けて休憩しその夜は社内に入ることを得ず。女子は各自に酒餅等を運び来たりてこれを饗す。男蕃は一夜野宿して翌朝各自の家に帰り土目の家より各戸順番に主演を開くを例とす。この他、粟祭のごとく繁雑なることなし。